

# 武庫川下流域掘込区間の対策イメージ

治水対策として河床掘削を実施する。これにより、礫河原や瀬・淵が消失し、川自らの作用により再生するまで時間が必要となるため、以下に示す対策を実施する。

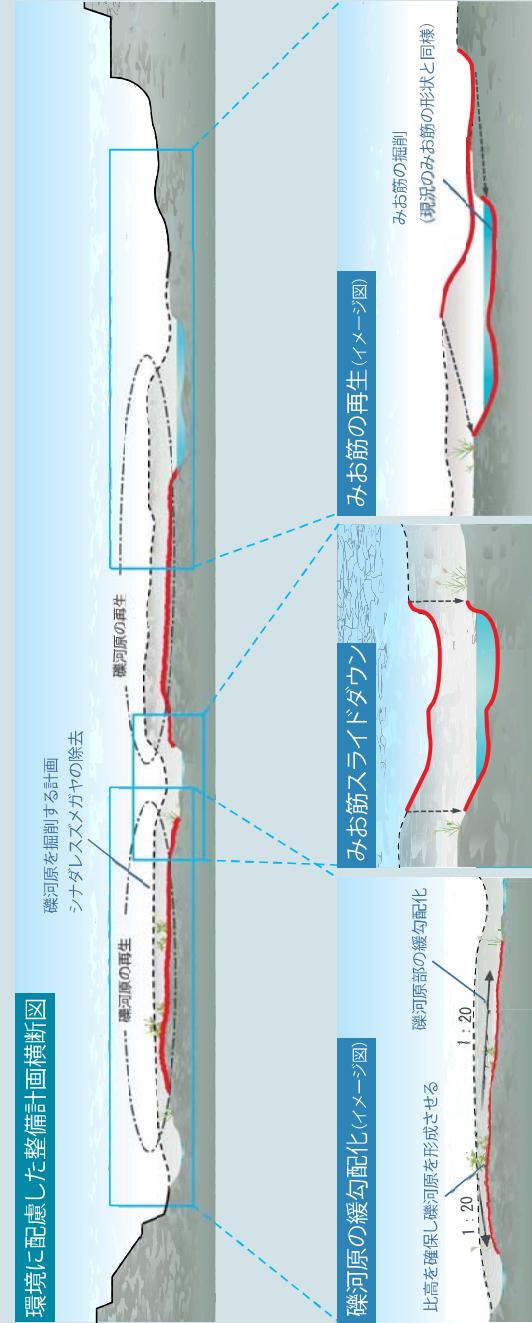
## 対策 1・2 磯河原と瀬・淵の再生、外来植物の除去

磯河原に特有な植生にとって適切な比高は、現状から判断すると概ね1.3～3.1mであることから、計画断面を見直し、現状の比高を可能なら限り維持するとともに、掘削線を緩勾配にすることで磯河原を早期に再生する。また、瀬や淵も現状と同程度のものを造成する。これにより、磯河原特有の植生の生育場所及びアユ等の生息場所を早期に再生する。なお、磯河原に繁茂している外来植物のシナダレズメガヤは、河床掘削により除去されるが、改修後の侵入を防ぐことは困難なため、モニタリングを実施し、順応的管理に努めるとともに、関係機関や地域住民と連携して、種子の供給原となる上流や周辺のシナダレズメガヤの除去に努める。

現況の横断面図（イメージ図）



環境に配慮した整備計画横断図



一部の水理諸量の変化率が目標値を超えるため、河床掘削により消失した磯河原の再生には時間を要するとの考えられる。このため、現況の河道特性（砂州の形状、みお筋、みお筋、緩勾配化）を踏まえた河床掘削を行い、早期に磯河原を再生する。